

とり せいろう ゆえりやくぎ  
取いそぎ 候 故略義ながら

こうじょう  
口上

さくじつ お ごい もうさず ちよつ とした まい きょう まかりかえ せいろう  
昨日は御いとま乞も不申、一寸下へ参り今日罷帰り候。【急いでいるので、略式の手紙で

すみません。昨日はさよならのあいさつもせず、ちょっと下へ行って、今日戻ってきました。】

{「下」は、集落の下のほうにある家のことか。}

だんだんおんせ わ あずか かんげ ぎ つきあ すちょうび たく つい みぎごきしん めいしゅごしょうお  
段々御世話に預り、勸化の義に付明日帳ひらきいたし度、就ては右御寄進として銘酒五升御

ねがいもうしあげたく たる ごつごう さん ま あわ もうすべくせいろうこと  
願申上度、もし樽の御都合にては三にても間に合せ可申候事。【いろいろお世話になり、

勸化の件について、明日「帳開き」をしたいと思います。つきましては、お酒五升の寄進をお願いしたく、もし樽の都合がつかなければ三升でも間に合います。】{「勸化の義」は、芭蕉堂建設のための寄付金を集めることであろう。「帳びらき」は、寄付金を記録した帳面を開いてみることか。もしかしたら、門人たちに預けてある帳面を持ち寄って、どれだけ集まったか集計してみよう、ということかも知れない。その席で酒を飲むので寄進してほしいというのだろう。}

いろ ゆき お はいび ぼんぼんもうしあぐべくせいろう こたび ところ ごふうさつなしくだされたくせいろう  
いろくさし行、(引?)御はなしも拝眉万々可申上候。此度の処よろしく御風察被成下度候。

とんしゆ  
頓首 【いろいろ差し行き、お話もお目にかかったときに申し上げます。このたびのこと、よろしくお察し下さい。】{「いろくさし行」は、いろいろありましたが、といったような意味か。「さし引」ならば、これまでにかけた経費を差し引いて計算する、という意味になるが。}

ご あるい みずのえ むいか せいげつ  
五(或は壬?)六日 井月

かじゃく がけい どうはいよう  
蝸石雅兄 当俳用